

雜記

種田山頭火

青空文庫

私には私らしい、庵には庵らしいお正月が来た。明けましてま
ずはおめでとうございます、とおよろこびを申しあげる。門松や
輪飾りはめんどろくさいから止めにして、裏山から歯朶を五六本
折ってきて瓶に挿した。それだけで十分だった。

歯朶活けて五十二の春を迎へた

お屠蘇は緑平老から、数の子は元寛坊から、餅は樹明居から頂
戴した。

元日、とうぜんとしていたら、鴉が来て啼いた。皮肉な年始客
である。即吟一句を与えて追っ払った。

お正月のからすかあかあ

樹明君和して曰く、

かあかあからすがふたつ

このふたつがうれしい、二羽といわないところにかぎりないし
たしみがあつた。さて、このふたつが啼いてどこまで飛んだやら！

今年の私は山村庵居のよろこびに添えて、二つの望みがある。

好きなものは、と訊かれたら、些の躊躇なしに、旅と酒と本、

と私は答える。今年はその本を読みたい。まず俳書大系を通読し
たいと思う。これが一つの望み、そしてその二つは、酒から茶へ
転換することである。いいかえればアルコールを揚棄したい、飲

まずにはいられない酒を、飲んでもよい酒としたいのです。前者は訳なく実現されましようが、後者は自分ながらあぶない。そこでまあ出来るだけ割引して、せめて酒に茶をまぜたいと念じている（そんな無分別な考を起すなどという悪友もある。じつさい、私にもそんな気がしないでもないのですが）。

本集を発送したら、久しぶりに行乞の旅に出かけるつもりです。時々行乞しないと米塩にも困りますが、それよりも人間が我儘になつて困ります。どの方角へ向うかは、まだ私自身にもはつきりしていません。どこでもよいのですから、半月ばかり、そこらあたりをぶらついてきましょう。

畑作はなかなかおもしろい。ほとんど自給自足が出来る。

ほうれんそうはたくさん播いた割合にはよくないが、新菊はよかつた。ちしやはすばらしく葉をひろげて、たべてもたべてもたべきれない。大根は根よりも葉が出来て、これでは大根という代りに大葉とよびたいほどです。菜は間引いてからぐんぐん伸びた。それを洗って干して漬ける。ひとりしみじみ噛みしめていると、ついほろりとする。このほろりが解りますか。

たべきれないちしやの葉が雨をためてゐる

けさはけさのほうれんさうのおしたし

霜の大根ぬいてきてお汁ができた

こんな句がいくらでも出来ます。畑作よりも句作の方がまだ上

手だという評判です。

会費について二三照会せられた方がありますから、ざつくばらんにここへ書き添えて置きます。あれはまず米一升というところで、二十五銭としましたが、それに拘泥するには及びません。それより多くても、また少くてもかまいません（タダでは困りますけれど）。私の生活は伸縮自在、化方に通じています。金があればあるように、なければないようにやってゆきます。

急にお寒くなりました。夜更けて物思いにふけっていると、裏の畑で狐が鳴きます。狐もさびしいのでしょう。

諸兄の平安を祈ります。
(一、一六、夜)

(「三八九」第五集)

青空文庫情報

底本：「山頭火随筆集」講談社文芸文庫、講談社

2002（平成14）年7月10日第1刷発行

2007（平成19）年2月5日第9刷発行

初出：「三八九」第五集」

1933（昭和8）年1月20日発行

入力：門田裕志

校正：仙酔あびす

2008年5月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

雑記

種田山頭火

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>